
【読み切り】めだかボックス

作者月詠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【読み切り】めだかボックス

【Nコード】

N8232P

【作者名】

作者月詠

【あらすじ】

お試し版、『めだかボックス』です！色々纏まり次第完全小説化するかも？

（前書き）

わーにんぐ！

この小説には多大なオリジナル主人公成分、中二成分、男の娘成分、チート成分が含まれています！

お嫌いな場合はブラウザバック！

【初登場編】

（よ、ようやく来れた…）

箱庭学園…その正門前に小さな影一つ。

「こらそこおー！こんな日に遅刻するなんて何を考えて…あれ？何時ぞやの…」

それを見て風紀委員の鬼瀬針音^{オニガセハリガネ}は数日前の少年を思い出す。

少年はスケッチボードに何かを書く。

カキカキ…

「えっと…オニオコゼさん！」

「お・に・が・せです！」

少年、名を『声意路^{コノイロ}奏多^{ソウタ}』。

一年十三組所属、血液型O型…

役職：『生徒会長補佐』

兼任で生徒会マスコットであるのが我らが主人公である。

【剣道部編】

カキカキ…

「日向さん…剣道三倍段、その意は…」

奏多は、いつもより小さめなスケッチボード片手に日向の懐に入る。

「剣道有段者に勝つには、その三倍の力量が必要だと言う事だよ…多分」

「おまつ…喋れタガツ!!?」

言葉と共に日向の腹に垂直に『肘』と『拳』を叩き込んでぶっ飛ばす！

（出たな…奏多の真骨頂、『曖昧ウンチク拳術』…数少ない奏多の声が聞けるのは親しい奴か、間違った言葉使った奴ぐらいだ…ちなみにその威力はめだかちゃん程じゃないが半端じゃない）

喋れない訳ではないのだ！

【柔道部編】

カキカキ…

「あっさんお久しぶり。元気してました？」

「…あっさんは止めてくれ、奏多」

「…おっさん（ボソッ）」

「…害虫は潰ムシされたいようだな？」

「カツ！！首根っこ掴みましょうか蛇先輩！」

カキカキ…

「蛇でも虫でも良いから黙ってる」

「…うっす」

おっばい目当ての城南くんイラストときた奏多くんでした。

【風紀委員編】

「やっほーみょうちゃん」

「坊さんみてえなアダ名やめろよ…」

「じゃあ何が良い？」

「冥利様とか「却下だバーロー」無表情で話すなよこえーよ」

カキカキ…

「思わず能力使いそうになったボクは悪くない」

「過激だなオイ」

奏多くん相手だと完全にツツコミなのがみょうちんなのさ！

【『十三組の十三人』編】

「同胞よ。俺と共に来い」

王土の誘いに奏多は自分のスケッチボードを降ろし、王土を見据える。

「図に乗るな。都城王土…ボクはあくまで、『自らが認めた人たちの為に役立つため生まれてきた』と自負しているんだ。ボクの世界

に、傲慢な王はいらない」

「そうか…なら、『跪け』」

「『取り押さえる』」

奏多に変化は無く、代わりに王土が『何かに取り押さえられる様に地に伏せた』。

「なっ…！」

「国には必ず、『裏の権力者』がいる。貴様の場合もまた然り…ただの『王の言葉の重み』ではボクには効かない」

ぶっちゃんけ奏多くんは目立たない？チートなのである！

（後書き）

以上です。

短いですが、あくまで読み切りですので…

それでは皆様、良いお年を！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8232p/>

【読み切り】めだかボックス

2011年1月8日20時30分発行